

農産FAX情報 第10号

令和8年10月1日

ゆとりみらい21推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

○イネ科雑草は越冬後に防除することが難しいため、秋のうちに除草剤散布を行いましょう。小麦の生育状況により使用液量が異なるため注意しましょう（第9号参照）。

2 てんさい

○収穫後のてんさいは、貯蔵中に収量・品質を損なわないよう、直ちにシートで覆いましょう。乾燥や雨水の浸入、凍結の防止に努めましょう。

○地力の維持・増進を図るためビートトップのすき込みは、収穫直後に行い分解を促進します。

3 豆 類

（1）小豆の収穫

○倒伏や子実水分、葉落ち程度を確認し収穫時期を調整しましょう。

（2）大豆の収穫

○刈り取り時期や時間帯は汚粒の発生に影響します。刈り取り時期は子実水分が20%以下（最適は16%以下）の時とし、茎表面に「ぬめり」がある時は収穫を中止しましょう。朝夕は機体内に塵が付着し汚粒の原因となりやすいので避けましょう。また、刈り遅れも子実の外観品質に影響します。適期収穫を心がけましょう。

4 緑肥

○緑肥作物は、生育が進むにつれてすき込み後の分解が鈍化します。また、結実すると雑草化と分解の遅れを招きます。基本的に結実までか、10月中旬から下旬までにすき込みましょう。

日没が早まり、視界もすぐに悪くなります

薄暗がりでは機械の周辺で作業する人が見えにくくなります。

クラクションを鳴らし、周囲に合図をしてからゆっくり発進するようにしましょう。

★公道通行時は早めにライトを点灯し、「夜光反射板」や「低速車マーク」を装着しましょう。

★収穫機の調整や詰まりものの除去は、必ずエンジンを停止してから作業しましょう。

★衣服の袖口や裾はボタン、ファスナーを止めて身体に密着させましょう。

★靴やステップは泥の付着により滑りやすくなるため、乗降時は十分に注意しましょう。

